様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２２０３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2015
課題番号：２４６６００４４

研究課題名（和文）重度アルツハイマー型認知症高齢者へのケア提供を遂行するための看護師の行為

研究課題名（英文）Nurses' Actions for Achieving Their Nursing Care for Older Persons with Severe Dementia of the Alzheimer's Type

研究代表者
浅井　さおり（Asai, Saori）

獨協医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：２０３２６３１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ケア提供が困難な重度アルツハイマー型認知症（DAT）高齢者へどのように看護師がケアを遂行しているのかを明らかにすることを目的とし、ケアが円滑にいかなかった9場面を分析した。結果、DAT高齢者が看護師に注意を向けている、それほど嫌がっていないと捉えてケアをすすめた時には、DAT高齢者はかかわりを受けてケア提供が続けられた。一方でケアに応じたくない意思を明確に捉えられた時には、看護師が努力をしてもケア提供は続かず、DAT高齢者が強く嫌がっていると捉えた時には、看護師はケアをやめていた。意図するケアの遂行においては、かかわる時と引く時を見極める臨床判断が重要であると考えられた。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to explore how dementia care nurses achieve their nursing care of older persons with severe dementia of the Alzheimer's type (DAT) when they are experiencing difficulties with the care. Nine nursing interactions were qualitatively analyzed. The results showed that when older persons with DAT paid attention to nurses or they did not seem unpleasant, nurses continued caring for them and they received the nurses' care. In contrast, when the nurses clearly interpreted that the older persons with DAT did not want to receive care, they could not continue nursing despite their efforts.In addition, when the nurses observed that older persons with DAT were very unpleasant, they stopped their caring. The findings suggest that it is necessary to examine the progress of caregiving and clinical judgments to assess whether nurses engage with older persons with DAT or not.

研究分野：老年看護学

キーワード：アルツハイマー型認知症　高齢者　看護師－患者関係　相互作用　ケア提供行為　臨床判断

１．研究開始当初の背景

(1)認知症高齢者は非認知症の者と比べて死亡リスクが高く健康支援が重要である。しかし、認知症が重度になるにつれて言語的意思疎通が困難になり、さらに攻撃的、拒否的言動がみられる場合にはケア提供が困難となりうる。その人の健康に重要な日常生活援助や医療処置が十分に提供できない状況も生じている。認知機能障害や周辺症状が伴う状況であっても、看護師がどのようにケア提供が中断される状況を回避して必要なケアを提供しているのか、実践的な知識を見出すことが必要である。

(2)介護老人保健施設認知症専門療養棟の看護師を対象者とした分析では、看護師は、アルツハイマー型認知症（以下 DAT とする）高齢者からの反応が変化しやすく、また反応がみられずに相互作用が途切れる状況が生じる中で、DAT 高齢者が反応を示す方向を手がかりにケア提供行為を組み立てていることが見出されている[1)]。しかし、DAT 高齢者がケア提供に応じないあるいは沿わない反応を示すことによってケア提供が中断するような場面での看護師の行為の探索ができていない。

２．研究の目的

本研究は、重度 DAT 高齢者から否定的言動がみられるケア提供場面で、看護師がケア提供遂行のために、重度 DAT 高齢者の反応をどのように捉えて行為しているのかを明らかにすることを目的とした。この目的のもとに、以下の研究課題を置いた。

１）看護師がケア提供遂行のために、重度 DAT 高齢者の反応をどのように捉えて次の行為を組み合わせているのかを明らかにする。

２）場面でのケア提供の展開の特徴を記述し、展開の特徴と合わせて、看護師がケア提供遂行のために用いている行為を実践可能な形で明確に記述する。

３．研究の方法

(1) 研究デザイン

質的記述的研究

(2) 理論前提

Blumerのシンボリック相互作用論[2)]を理論前提とした。

(3) 研究対象者

看護経験が3年以上、認知症専門棟での経験が1 年以上ある看護師、および研究参加に同意した看護師が勤務する場に入院/入所する 65 歳以上の重度DAT高齢者を研究協力者とした。DAT高齢者は、対象者の看護師が過去約2週間でDAT高齢者からケア提供場面で否定的言動（ケアに応じない、働きかけに沿わない言動）の表出エピソードがあった者とした。

(4) データ収集方法

研究協力者間での1対1のケア提供場面を参加観察し、看護師がいつもよりケア提供がDAT高齢者の言動によって困難であったと感じた場面をデータとした。研究開始時点では、DAT高齢者の周辺症状によってケアが中断する場面をデータと考えていたが、データ収集を開始してみると、ケアが中断するような困難な場面では複数のケア提供者でケア提供をしており、1対1のケア場面で該当する場面に出合うことがほとんどなかった。そのため、収集するデータの範囲を広げ、データ収集期間を延長し、結果として助成期間をデータ収集に充てることとなった。データは、場面の参加観察と共に、看護師に場面でどのようにケア提供していったのか半構成的インタビューを用いて収集した。

(5) データ分析方法

分析には質的記述を用いた。はじめにケア場面の参加観察データと看護師へのインタビューデータを用いて、シンボリック相互作用論に基づきケアの展開に沿って時系列で看護師の言動を再構成し、ケア行為を分節化し分析単位を作った。次に、分析単位毎に、看護師のDAT高齢者へのかかわりが直前のDAT高齢者の言動をどのように解釈した結果行われたのかに着目して看護師のDAT高齢者の言動の捉えを帰納的にカテゴリー化した。また、分析単位ごとに看護師のかかわりの結果ケア行為が構成されたかどうかを確認し、ケアが円滑に提供できなかった場面での看護師の行為の特徴を検討した。本研究は埼玉県立大学研究倫理委員会の承認を受け実施した（受付番号24018号）。

(6) データ収集期間は、2013年2月より2016年3月であった。

４．研究成果

(1) 研究対象者は看護師 6 名、DAT 高齢者 6 名であった。研究対象者の看護師（以下対象者とする）は全員女性で平均年齢 40.0 歳、平均看護経験年数 12.7 年、認知症専門棟での平均経験年数は 5.4 年であった。DAT 高齢者は男性 2 名女性 4 名の 6 名で、平均年齢 70.0 歳、NM スケール得点 2-15 点、N-ADL 得点 8-31 点、DVD スケール得点 19-36 点であった。高齢者は全員が日常的な物事に関心を示さないことがある者で、5 名に尿失禁、3 名にやたらに歩き回ることがみられていた。

分析に用いた場面は 1 分 20 秒から 22 分 55 秒で、歯磨きが 3 場面、お茶・おやつの介助および検温が各 2 場面、排泄介助および食堂への誘導が各 1 場面の計 9 場面であった。7 場面で対象者は意図するケア提供を途中で中断または中止していた。分析単位の総数は 135 で、そのうち対象者が DAT 高齢者の言動についての捉えが語られた分析単位は 71 で

あった。

(2) 71 分析単位の分析により、ケア提供が円滑にすすまない場面での看護師の DAT 高齢者の言動の捉えとして、22 サブカテゴリーからなる 11 カテゴリーが見いだされた（表１）。サブカテゴリーを＜＞で示す。

表1 ケア提供時の看護師のDAT高齢者の言動の捉え

カテゴリー	サブカテゴリー
言葉で意思を明確に捉える	
表明されない意志を捉える	みられた動きから相手のしたいことを捉える
	相手が他にしたいことがあると捉える
情緒的状態を捉える	普段と変わらない状況と捉える
	笑っているので悪くない、大丈夫と捉える
	落ち着いてしまっていると捉える
	普段と違い興奮していると捉える
	不機嫌さや怒りがあると捉える
	苦痛や気持ちが良い方向に変化していると捉える
嫌がっている度合を捉える	強く嫌がっていると捉える
	あれ位だったら普段もある動きと捉える
	本当に嫌ではないと捉える
嫌だと感じていることを捉える	特定の手技を嫌だと感じていると捉える
	かかわられることを嫌だと感じていると捉える
	何か嫌がっていると捉える
かかわりに対する理解度を捉える	状況をわかったと捉える
	働きかけが伝わらなかったと捉える
相手の身体状況に関心を向ける	
相手の協力状況を捉える	一緒に動いたので動作をとったと捉える
	タイミングが合わなかったと捉える
かかわりに関心が向いているかどうかを捉える	看護師のかかわりに注意を向けていると捉える
	かかわりから関心が逸れていると捉える
	身体状況に注意が向いていると捉える
かかわりに対する理解度を捉える	働きかけを何かしら理解していると捉える

(3) DAT 高齢者が対象者の働きかけを受けてケア提供が展開した分析単位が多く所属したサブカテゴリーは、＜本当に嫌ではないと捉える＞、＜普段と変わらない状況と捉える＞、＜苦痛や気持ちが良い方向へ変化したと捉える＞、＜看護師のかかわりに注意を向けていると捉える＞であった。一方、対象者がケア提供を中断、終了した分析単位が多く所属したサブカテゴリーは＜みられた動きから相手のしたいことを捉える＞、＜普段と違い興奮していると捉える＞、＜強く嫌がっていると捉える＞であった。

①＜本当に嫌ではないと捉える＞は 8 分析単位で見出され、DAT 高齢者がコップに関心を向けてケアが進まなかった１分析単位を除き、7 分析単位では、対象者は、顔は嫌がっていたが体で嫌だと表現する感じがなかった、大声を出しても腕を伸ばさせてくれたと捉え、場所の移動や、血圧測定の手技を DAT 高齢者へ行うことができていた。

②＜看護師のかかわりに注意を向けていると捉える＞は 5 分析単位で見いだされた。出会いの時に対象者を見て立ち止まりうなずく、また、机に伏せていた DAT 高齢者が呼名に対し体が少し上がった様子などから、対象者は、自分に DAT 高齢者の注意を引き付けることができたと捉え、DAT 高齢者の手を引いて歩き出す、血圧測定をはじめる行為を行い、この行為に対し DAT 高齢者は対象者とともに目的の方向へ歩く、上腕にマンシェットを巻く行為を受ける言動を示していた。

③＜普段と変わらない状況と捉える＞、＜苦痛や気持ちが良い方向へ変化していると捉える＞は、それぞれ 2 分析単位が所属していた。対象者は、ホールで座って過ごす様子がいつもと変わらないと捉えて、声をかけとともにコップを口元に運ぶ、排尿後 DAT 高齢者の険しい顔が和らいだと捉えて便座から立ち上がる声をかけるなどのケアを展開していた。そして、DAT 高齢者は全ての分析単位で対象者のかかわりを受けていた。

④＜強く嫌がっていると捉える＞では、所属した 5 分析単位中 4 分析単位で対象者は行っていたケア提供を中止していた。対象者は、DAT 高齢者が自分を見ずに強く手を振り払った、表情も言葉も体も全部嫌がっていた、思い切り立ち上がったと捉え、体に触れることも難しい、駄目かなと感じてケア提供を中止していた。

⑤＜みられた動きから相手のしたいことを捉える＞では所属した 7 分析単位中 3 分析単位で対象者は DAT 高齢者へのケア提供を中断、中止していた。DAT 高齢者の食堂へはまだ行かないという意思を、言葉だけでなく、立ち上がる気配のない座り方から捉えて誘導を断念する、また、歯磨きのための洗面所への移動を、言葉では同意しても頑として座っていたことから行かない意思を捉えケア提供を断念することがみられていた。残りの 4 分析単位では、対象者は DAT 高齢者のケアを受けない意思を確認しても、ケア提供をすすめる働きかけをしていたが、繰り返し DAT 高齢者からもケア提供を受けない反応を得ていた。

⑥＜普段と違い興奮していると捉える＞には１分析単位のみが所属していた。対象者は言葉や表情で DAT 高齢者が怒っていると感じていたが、血圧測定後に検温を始めた時に普段とは違う興奮を捉え、興奮している時に無理にするものではないとケア提供を中止していた。

⑦対象者の働きかけに対してケア提供が展開しない言動が DAT 高齢者から見られた場合、対象者は、ケアを中断、中止する他に、DAT 高齢者に意思を確認する、繰り返し同じ働きかけをする、相手の言動に合わせて対応する行動をとっていた。

(4) 重度認知症患者へのケアは「患者への関係」と「患者の代わりに実施しなければならない作業」に関連する[3)]、関係中心の相互作用と作用中心の相互作用のバランスをとること[4)]と質的に明らかにされてきていたが、本研究は、具体的なケア提供場面の展開で重度認知症患者との相互作用を作り上げる看護師の行為の特徴が検討された。本研究では、

重度DAT高齢者のケア提供が円滑にいかない場面において、対象者はDAT高齢者の意思が確認できた時、DAT 高齢者が強く嫌がっていると捉えた時、および普段と違う興奮がみられた時にケア提供の中断もしくは中止を判断していた。これらの捉えは、ケア提供が円滑に展開できた時にみられた、本当に嫌ではない、普段と変わらない状況という捉えとは対をなすものであった。この結果からは、重度DAT高齢者のケア提供においては、本当に嫌かどうか、普段と違うかどうかという二つの視点が、ケア提供時のかかわりを決める判断基準となっていることが示唆される。本研究結果は、重度DAT高齢者へのケア提供にかかわる看護師の臨床判断を示していると考えられた。

＜引用文献＞

① 浅井さおり、重度アルツハイマー型認知症高齢者との相互作用場面における看護師のケア提供行為の構成－シンボリック走路作用論の視点での検討－、2011年度聖路加看護大学大学院博士論文、2012、

②Blumer, H. 後藤将之訳、 シンボリック相互作用論パースペクティヴと方法、勁草書房、1991.

③Berg, A., Hallberg, I.R. & Norberg, A.: Nurses' reflections about dementia care, the patients, the care and themselves in their daily caregiving. International Journal of Nursing Studies, 35(5), 271-282, 1998.

④Hansebo, G. & Kihlgren, M.. Carers' interactions with patients suffering from severe dementia: a difficult balance to facilitate mutual togetherness. Journal of Clinical Nursing, 11, 225-236, 2002.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 3 件）

①浅井さおり．重度アルツハイマー型認知症高齢者へのケア提供場面での看護師の行為－ケア提供が円滑にいかなかった場面での分析－．日本老年看護学会第 19 回学術集会．2014年6月28日．愛知県産業労働センターウインクあいち（愛知県名古屋市）．

②浅井さおり．重度アルツハイマー型認知症高齢者との相互作用場面での看護師のケア提供行為－シンボリック相互作用論の視点での検討－．日本老年看護学会第 18 回学術集会．2013年6月5日，大阪国際会議場（大阪府大阪市）．

③浅井さおり．重度アルツハイマー型認知症高齢者との相互作用場面でのケア提供行為－認知症高齢者の言動に対する看護師の捉え方に焦点を当てて－．日本認知症ケア学会第14回大会．2013年6月2日．福岡国際会議場／福岡サンパレス（福岡県福岡市）．

６．研究組織

(1)研究代表者

浅井　さおり（Asai Saori）

獨協医科大学看護学部、准教授

研究者番号：２０３２６３１７